

## 府立高校特色化推進プラン（中間案）に対するパブリックコメントの概要（要旨）

- 1 意見募集期間 平成24年10月11日（木）から11月7日（水）まで
- 2 意見提出件数 29件
- 3 意見の概要 プランの趣旨や内容に賛同・期待する意見が大多数

### ①質の高い教育

- 生徒用のタブレット型端末を整備することで、校外でのフィールドワークを積極的に取り入れ、体験型の授業を充実できるのではないかな。
- ICTを活用し、紙を一切使わない授業を実施する高校があってもよい。
- 情報端末を適切に活用すれば、小・中学校では取り組めなかったようなクリエイティブで中身の濃い取組が可能である。
  
- 35人学級もよいが、逆に、学校によっては1講座80人や120人といった授業もよいのではないかな。優秀な先生の優秀な授業を多くの生徒が受けられることになり、その生まれた人的余力で、少人数習熟度授業を行うといったことも可能である。
- 体育では、生涯スポーツにつながるような内容や習熟度別の授業があってもよい。運動が嫌いになるようなことのない工夫が必要である。
  
- 学校行事を1学期に集約し、高校3年生は2学期以降は勉強のみに専念できるなどの柔軟な教育体制を敷いてもいいのではないかな。夏から受験まではまさに予備校そのものの学校があってもいいのではないかな。
- 地域の公共施設を利活用し、進路別・習熟度別に講座展開する公立塾を設置すべきである。難関講座には、高校教諭を配置し、振り返りや基礎基本学習には、中学校や小学校教諭を配置するなど、校種の枠を超えて、地域生徒の学力伸長や確かな進路保障を目指すしくみが必要である。
- 府立高校実力テストの作成にかかる労力・経費は、最小の経費で最大の効果を発揮する予算の使い方になっているか疑問である。優れた市販テスト問題を活用することで、テスト作成の労力を普段の授業に振り分けた方が、生徒の学力向上に繋がるのではないかなと思う。
- 各教科の学習方法や、生徒の学習上の疑問に答える掲示板等の機能を備えたポータルサイトを構築すべきである。府立高校生なら誰でもアクセスでき、府立高校教員であれば誰でも関連情報をアップできるようにすることで、学習支援の強力ツールになると考える。
  
- 「北部地域の医療を担う人材の育成」には賛成であり、教員も含め北部出身者が北部に戻る施策が必要である。北部地域の活性化を考えてほしい。
- 医療を担う人材を育成できたとしても、北部地域に戻って来なければ意味がないので、教育委員会だけではなく、行政全体で北部地域に戻りたくなる魅力的な地域づくりを進める必要がある。
- 北部地域の医療を担う人材の育成について、例えば、府立医大に北部地域推薦枠を設けたり、インターンで北部に戻るシステムを導入するなど、医療の現場に触れる機会を増やし、医科大学と学校と地域が連携するような取組をしてほしい。

- 中丹地域の府立学校の進学実績を伸ばすために、福知山高校に附属中学校を設置すべきである。地元の公立中学校に不安を感じ、私立高校に入学させている保護者もいる。安心して通える公立中学校として、附属中学校を設置してほしい。
- 北部地域の高校を良くしていこうという動きが全く見えない。福知山高校や宮津高校に中高一貫があってもよい。「北に〇〇高校あり」と誇りを持てるような学校にしてほしい。
- 近隣の中学校施設を活用して、南陽高校を全国レベルの中等教育学校にしてほしい。南陽高校の近隣地域は、東大や京大への進学率全国No. 1であるが、最初は南陽高校を希望した小学生も塾に通った結果、有名私学中学に進学してしまう。また、公立中へ進学した生徒の最上位層は京都市立堀川、西京高校に進学している。こうした子どもを南陽高校で受け止めれば、地域的にスポーツ、文化面での活動も非常に盛んなことから京都を代表する高校となるはずである。
- 北部地域は介護施設が充実しているが、介護福祉士の資格取得のための学習がしづらい状況にある。大江高校では福祉の学習をしており、交通の便もいいので、介護福祉士の学習ができる専攻科を設置してほしい。専攻科なら高校卒業後の生徒が地域の介護施設で実習を行うなど、地域と連携した人材育成が可能である。
- 教師になりたい大学生を夏休みや冬休みなどに高校（特に北部地域や生徒指導困難校）に派遣し、部活動や授業の補助をさせてはどうか。

## ②教職員の資質向上

- 質の高い教育を目指すには教職員のゆとりが不可欠なので、小規模校においても教職員の定数を増やしてほしい。
- 学校の特色化を進めるのに一番大切なことは、学校をより良くしたいという教職員全員の共通理解であるので、校内に改革部を立ち上げ、自校をどのようにしたいのかを真剣に考えればよい。少人数規模の学校では教職員数に余裕がなく、組織化が難しいかもしれないので、教職員を増やしてほしい。
- 基礎学力の充実、キャリア教育、生徒指導、特別支援教育をはじめ、多様な生徒への指導や部活動と、教職員は週休日も指導に時間を費やし教育活動に取り組んでいる。特色づくりをさらに進めるためには、教員自身の指導力向上や新たな取組についての学びが必要であり、そのためには教員の増員、校長裁量予算の確保が欠かせない。新たな取組を進める中で教員自身も学び続け指導力も育ってくる。是非とも生徒と向き合う時間を確保し、課題研究等の指導を進めながら大学等との関係機関との調整などがもう少しゆとりを持って取り組める環境を考えてほしい。
- 高校には研究機関ではなく、教育機関としての役割が期待されているので、「質の高い教育」における「質」とは、大学的な高度・専門的内容ではなく、「人間としての質」「社会人としての質」を高める教育であってほしい。そのためには、ソーシャルスキルやキャリア教育などをしっかり生徒に指導できる教職員が必要であり教職員が研修に参加でき、研鑽を積める環境や経費が必要である。

- 将来の担い手を育てる上で教育はとても重要である。教員給料が府の予算の多くを占めているものの、教員や生徒へのソフト部分の予算が大変少ないことは問題であると思う。プランの方向性は賛同するものが多いが、特に教員の資質向上について、大変忙しい教育現場の中でどう実現していくのかが気になる。民間から企画提案をもらい、魅力ある授業づくりや経営マネジメントができる研修を実現してほしい。
- 今後、ICTを用いた授業が増加すると思うので、効果的なICT教育についての研修機会を府内どこでも受講できるようにしてほしい。
- 中堅教員が若手教員に対し、近隣校持ち回りで、気軽に悩みを打ち明けながら、社会人としてのマナーや授業力、生徒指導力向上等を図る場として、「若手育成塾」を各校に設置すべきである。
  
- 高校の授業に、中学校の教員がティームティーチング要員として参加したり、中学校や小学校の授業やHR活動に、高校教員が補助として参加するといった異校種間連携の取組を通じて、多面的な指導力向上を図るべきである。
- 近隣校同士で空き時間等を利活用し、恒常的に授業参観を行い授業力向上を図るべきである。
  
- 公立高校は潰れないという意識から、教師に危機感がない。全教職員が生徒の力を伸ばして結果を出すという意識を持ち、教師は誰に何を何のために教えるのかという目的意識を再確認する必要がある。保護者はよりよい就職・進学という結果を学校に求めており、それを教職員が理解していれば、今なにをすべきか自ずとわかる。ただ、現状では保護者すべての要求に応えることが難しいのは確かである。教師の目的意識や指導力を高めるには、教師が教えることに専念できる環境づくりが重要である。教育目標にそった指導は3年が一つの目安だが、その途中で不本意な人事異動が行われれば、教師の意欲を削ぐことになるので、異動にあたっては納得できる理由を本人に伝える必要がある。また、学級運営や生徒に関わること以外の事務処理は学校事務職員が行うべきである。事務職員がすべき仕事まで教師が行うことがないよう、教師が子どもに向き合える時間や教材研究に費やせる時間を作るよう、事務職員は学校の一職員としての自覚をもって役割を果たすことが必要である。実際に指導力のある教師とそうでない教師がいるため負担が偏っている。プランを推進する前に学校が指導力のある教師に対して、教えることに専念でき、働きやすい環境を提供できる体制であるのかを見直すべきである。

### ③府民の信頼を得る学校運営

- 高校は義務教育ではないのだから、広い視野を持った生徒をはぐくむことが大切である。さすが京都！と言われるような高校にしていってほしい。
- 高校は大学への通過点ではないので、授業、部活やイベントなど、なんでもいいから生徒の記憶に残るようなことをしてほしい。高校の3年間は一番輝ける時間であり、その気持ちにこたえる覚悟を高校はもってほしい。
- 公教育は底辺をしっかりとすくい上げることが大切だが、上位層を私学にまかせっきりにしてもいけない。税を投与して教育を行うからには、すべての層のニーズにこたえきることが必要である。集中と選択のできる私学よりも効率は悪く、経費も

多くかかることになるだろうが、その点は、公立の中で役割分担をしていくことで乗り切ってほしい。

- 高校の特色は勉強や部活だけではなく、その高校の地域や高校自体の風土、雰囲気も特色であり、高校生活がどれだけ充実しているか、地域の人とどれだけ協力しているかで積み重ねられるものである。
- 「脱少年非行ワースト1」を目指すよりも、具体的に非行件数などを減らすことを目標にした方がいい。
- 学校には様々な事業がありすぎるので、もっと精選してもよいのではないか。
- 学校はチームで動くので、優秀な教員として個人を表彰するのではなく、教職員全体で高めあっている学校を表彰してほしい。

#### ④徹底した進路指導

- 「高校卒業後進学しない生徒が、自立して生活していくためには、高校教育の中で、ある程度のソーシャルスキルを習得させ、キャリア教育を充実する必要がある」との委員意見に賛成である。将来の就職に向けて、高校でもっとスキルアップできる教育をすることが大切である。
- 保護者としてはやはり卒業後の進路が心配なので、キャリア教育の拡充に全面的に賛成である。放課後や休み中の補習授業、勉強合宿などを実施してほしい。
- 地域企業や自治体等と連携し、商店街の空き店舗を活用したり、大規模店の販売スペースを間借りして、高校生が運営する物産店を常設してほしい。専門学科の生徒だけでなく、キャリア教育の一環で普通科生徒も積極的に参画することで、学校や地域の活性化、生徒の職業観の涵養やコミュニケーション能力の育成に寄与すると考える。運営は、各学校から担当教員を捻出し、プロジェクトチームを編成して当たってはどうか。

#### ⑤修学の支援

- 広域から良い生徒を集めるのであれば、通学費補助制度について改善すべきである。最低でも通学費が1ヶ月1万円を超える分の半額ぐらいは補助してほしい。
- 通学費や寮費の補助は負担の軽減ではなく、全額補助にしてほしい。
- 部活動や勉強したい生徒が時間を気にせずできるよう、通学バスを走らせてほしい。
- 安価な料金でスクールバスを運行させるなど、学校の特色化を進める前に施設、設備、交通機関を充実してほしい。
- 中丹地域には、東舞鶴高校や大江高校のように交通の不便な学校があるので、公共交通機関との連携を進め、通学しやすい環境を整備すべきである。

#### ⑥部活動の充実

- 全国トップレベルのアスリートの育成は、徹底的にやってほしい。サッカーならA高校、野球ならB高校というように、公立京都オールスターチームを作ってほしい。そのためには、選手が競技に集中できる環境づくりが必要であり、寮の整備は非常によいアイデアである。

○県外遠征だけではなく、世界で通用するように府の1位の学校は海外にも遠征したり、また、海外の強豪校を招致するなど、強いチームとぶつかる機会をもっと作ってほしい。

#### ⑧多様な人間力の育成

- 子どもたちに、「早寝、早起き、朝ご飯」など、基本的な生活習慣の大切さをしっかりと指導してほしい。
- 昨今のいじめ問題も踏まえ、人の気持ちになって考えられる、また、努力して人の気持ちをわかろうとするような「思いやりの心」を持った人づくりをしてほしい。
- 京都にある公立高校にも関わらず、伝統文化を専門的に扱った学校がないように思う。去年の国民文化祭では様々な部活動が活躍していたが、学校全体で伝統文化に浸ることができるような学校がないのではないか。世界有数の文化都市「京都」にふさわしい文化の香りたただよう高校をつくってほしい。

#### ⑨発信力・広報力の強化

- 私立高校ガイドというテレビ番組があるが、公立高校もこうした番組があれば、もっと公立高校を身近に感じられる。高校の特色や取組をもっとアピールしてもよい。
- 公立高校の活躍を新聞で見ると元気が出る。是非とも高校生には頑張ってもらいたいし、頑張れば報われる環境を作ってほしい。
- 府立高校生の頑張っている姿がよく新聞に載っている。もっと色々な機会を取り上げてあげたらいいのではないか。
- 保護者や地域住民による学校紹介コーナーを設置したスクールガイドを作成してはどうか。教員目線ではない、インパクトのある冊子になると期待できる。
- 教員、保護者、地域住民、在校生等を巻き込んだ「地域府立高校情報誌」を作成してはどうか。作成した情報誌は、地域に無償で配布するとともに、公式ホームページからダウンロードできるようにしてもらいたい。
- 「結果を出すことが、最大の広報だ。」といった揺るがぬ信念のもとに、広報活動ではなく、教育に専念することを特色とする高校があってもよい。

#### ⑩各校独自の施設設備の整備

- 私立高校に比べ、建物や機材などの老朽化が目立つ。もう少し物理的な学習環境をよくすることが必要である。
- 自習室の有効活用は、最小の経費で最大の効果を発揮する。冷暖房完備の自習室を1年中使用できるように、予算措置することで、学力向上に直結する。
- 単純にいい校舎、いい機材でなく、例えば、風土料理を提供できるような食堂があれば、地域の活性化にもつながり、そうした施設も魅力のひとつになる。採算だけ、教育だけでなく、いろいろな角度から検討してほしい。

□その他

- プランの方向性や具体案は、目指すべきものが列挙されており実現できればすばらしい。教職員の増や施設の整備など、多大な費用を伴う内容が多いが、教育は未来への投資であることを念頭に積極的な予算配分をしてほしい。
- 本当にこの推進案のような高校教育の大々的な改革を進めるなら、提案だけでなく、具体的な人員、予算、思い切った施策が必要であり、行政、教育現場ともに覚悟が必要である。すべては生徒のためであり、内容の伴わない数字や結果だけで判断されるような教育行政はやめるべきである。
  
- 各高校に、様々な名称の学科やコースがあり、かつ、横文字が多用されているので、非常にわかりづらい。生徒が魅力を感じるとともに、「名は、体を表す」ような学科名にしてほしい。
  
- 以前、高校に寄付をしようとしたが、個人からの寄付は受けづらいと言われた。寄付金は高校で自由に使えないからのようだが、私立高校や大学では、卒業生などに対して積極的に寄付を呼びかけている。公立高校でも簡単に個人が寄付できるようなくみを作り、そのお金を学校で自由に使えるようにすべきではないか。
  
- 学校の現状と生徒の様子を把握した上で、府立高校全体のレベルアップを考えた取組をすることが重要である。高校生の学力差・地域格差・公立と私立の格差をみれば、現状への危機感がもっと必要である。少子化が進む中、物事に取り組む意欲が乏しく、やってもらって当たり前と考える子どもを作り出しているのは大人であり、教師である。家庭の教育力が低下し、学校や教師への要求が増え、教師がその対応を負担に感じ疲弊している。特に子どもに直接向き合い、誠実にまじめに取り組む教師ほど、多くの仕事のがのしかかり、時間的・精神的余裕がない。
- 高校のレベルアップには中学との連携が不可欠であるが、高校からの発信が不十分である。高校に進学するには、それに見合う学力・社会性が必要だが、中学校で身につけられているのか疑問である。子どもたちが進路を実現するためには、中学校の時点から個々の将来設計、自分の生き方、社会貢献等について考えることが必要である。コミュニケーションを行うよう子どもたちに指導する教師自身、特に中高の教師間でのコミュニケーションが不足している。最近、校種間連携が取り組まれているが、高校のレベルアップには、中学校の教師が高校の授業を体験して高校の現状を知り、中学生に何が必要か理解して指導していくことが必要である。